



1383

570

昭和十六年七月十四日松岡大臣發在獨大島大使宛電報
對 獨 伊 通 報 案
第六四六號

在佛大使ヨリ轉電セル通り愈々堅キ決意ヲ以テ佛國政府ト交渉ヲ開始シタルトコロ右ハ我方南進ノ第一歩ナルトモニ英米ニ對スル重大ナル牽制手段ニシテ三國條約ノ趣旨ニ依リ獨伊ニ協力スル所以ナルニ付テハ交渉ノ過程ニ於テ佛政府ヨリ責任國政府ニ對シ我方要求ノ拒絕乃至緩和等取ナシ方顧込ミ來ル場合ニハ之ヲ斥クルハ勿論側面ヨリ我方ヲ援助シ我方要求受諾方佛側ヲ説得スル様申入ラレ度シ
本電訓令トシテ伊ニ轉電アリタシ
佛ニ轉電アリタシ

外務省

(日本標準規格B5)

0 255

588

1383

569

下ニ訴フル次第ナリ

外務省

(日本標準規格B5)

0 254

587

REEL No. A-0287

極秘

36

1383

574

昭和十六年七月十四日

野村 大使宛

松岡外務大臣

往電第 號ニ關シ

館長符號

未ダニ御同調ニ接セザル處「オーラル・ステートメント」ガ今四
御取次ノ了解案ノ一部ヲ構成スルト否トニ拘ラス極メテ不都合ナ
ル文書ナルハ疑フノ餘地ナシ凡ソ一國ガ完全ニ獨立性ヲ有スル他
國ニ對シ其政府ヲ構成スル重要ナル分子ヲ非議シ稍々露骨ニ斯ル
モノヲ除キ改造セザル限り假令本件了解ノ如キモノヲ達ダルトモ
其効果ナカルベク幻影ニ等シカルベシト云ヒ其末段ニ於テ「ノ
ート」ノ前「重ネテ實現シハ兎モ角トシテ政府改組・態度變更ヲ

外務省

(日本標準規格B5)

0 256

589

1383

575

根本的ニ要求スルガ如キ殆ド其例ナキコトニ屬シ本大臣ノ記憶ニ
殘ル所ハ一九〇五年夏「タンヂール」事件ニ關シ獨逸皇帝ガ佛國
政府ニ對シテ「デルカッセ」ノ放逐ヲ求メ此ノ要求ヲ聽カザレバ
本件ノ圓滿解決不可能ナリト迫リタル例位ナリ尤モ右ノ如キハ白
人國ガ屬國又ハ保護國ニ對シ常套手段トシテ用フル所ナリ又此ノ
「オーラル・ステートメント」ヲ專心吟味スルニ於テハ右ハ現日
本政府ノ關スル本交渉ニ關スル限り絶縁狀トモ見得ベシ皇國ノ尊
嚴ト其獨立國タル所以トヲ確信シ居ル本大臣ニ於テハ諸般ノ事情
ヲ顧念シ如何ニカシテ之ヲ角立テズニ處理セント百方苦慮セルモ
斯ル「オーラル・ステートメント」ハ遺憾乍ラ到底之ヲ峻拒スル

外務省

(日本標準規格B5)

0 257

590

REEL No. A-0287

アジア歴史資料センター

576

ノ他ナントノ結論ニ到達セリ尙(一)本「オーラル・ステートメント」ニ付最モ奇怪ナルハ貴大使及所屬同僚ナルモノノ態度ト我政府ノ態度ヲ全然別物トナシ甚ダシキハ米國政府自ラ貴大使ト同意見ノ指導者多數日本ニ在リト爲セル點ニシテ一國ノ代表者ト其代表セラル政府トヲ對立セシメタルガ如キ申分ハ本大臣ノ未ダ嘗テ其例ヲ知ラサル所ナリ又一國ノ政府ガ他國ノ指導者ナルモノノ態度ヲ其政府ヲ差シ指キテ云々スルコトモ異例且ツ非禮ニ屬スルコトナリ

(二)本「オーラル・ステートメント」ノ如キハ皇國ノ威儀ヲ重ンズル外務大臣ナラバ之ヲ接受セル瞬間峻拒スル筈ナルニ而モ今日迄之ヲ遲延セルハ本大臣ニ於テ如何ニカシテ角立タザル様之ヲ處理

外務省

(日本標準規格B5)

0 258

591

577

シ些ニテモ先方ノ感情ヲ刺戟スルコトヲ避ケ以テ殆ド絶望ノ裡ニモ猶本交渉ノ妥結ヲ計ラントノ精神ヲ以テ有ラユル角度ヨリ右「ステートメント」ヲ研究セル故ニシテ更ニ貴大使ガ右受理ノ際交ハサレタル問答ノ模様ヲ電報方訓令シ今日迄其御回電ヲ待チ居リタルモ亦斯ル精神ニ基ク次第ナリ(三)若シ之ガ逆ニ帝國政府ヨリ此種ノ「オーラル・ステートメント」ヲ米國政府ニ突キ付ケタリトセバ其ノ反應果シテ如何ナルベキヤ想半バニ過グルモノアラシム尙本大臣ノ觀ル所ヲ以テスレバ日米國交ハ永シ將來如何ナル迂餘曲折ヲ經ルトシテモ斯ル非禮且ツ不都合ナル文書ノ兩國政府間ニ存在スルコトハ御互ノ爲ニ將來甚ダ取ラザル所ナリ(四)米國政府ガ

外務省

6.10

0 259

592

578

我現政府ノ組織變更セラレザル限り假令日米了解成立シタリトモ之レガ履行ハ「イリニーション」ナリト断定セララル以上現内閣トシテハ本案ヲ到底眞面目ニ審議スル氣ニナレズ國務長官ハ悉ラクソコ迄モ考ヘラレタルニハアラザルベシト思考スルモ其ノ眞意如何ニ拘ハラズ帝國政府ハ飽迄モ誠心誠意妥結ノ望有ル案ヲ作成セント苦慮シ居ル次第ナリ此見地ヨリスレバ米國政府ガ「オーラ・スタートメント」ヲ撤回セラレザル以上帝國政府ハ本案ノ審議ヲ進ムル能ハサル弱目ニ陥ルベシ斯ノ如キハ素ヨリ米國政府ノ希望セララル所ニアラスト信ス就テハ貴大使ハ如上ノ所見ヲ体シ米開ニ於テ我方ガ本「オーラ・スタートメント」ヲ峻拒セザル

外務省

(日本標準規格B5)

0 260

593

579

ヲ得ザル皇國ノ立場ヲ充分了得スル様懇切ナル説明ヲ加ヘラレ通滞ナク「オーラ・スタートメント」ヲ先方ニ御返附相成度シ尤モ右ノ返附ヲ遲延シタル事情及精神ハ既述ノ通りニシテ我方ハ日米了解案自体ニ付テハ飽迄其ノ妥結ヲ希望シ將ニ最後ノ審議ヲ了セントシ居ル次第ニ付何レ一兩日中ニハ我修正案及理由書ヲ電報スベク爲念右國務長官ニ御説明置キアリ度シ

外務省

(日本標準規格B5)

0 261

594

REEL No. A-0287

3104

電信課長

昭和十六年七月十五日

午後

華府發

(暗機)

七月十六日 前發本省著

極秘 館長符號

野村大使

松岡 外務大臣

第五〇八號

貴國第三五六號の答へ

先方「オラハ、ステートメント」ノ重大性ハ

察シテハ申見ト感テ同シラズルニ我

館長符號電信

594

IMT 557

180

595

3104

595

内閣改造迄ヲ企圖シ居ルモノハ豫

斷定シ得之我政府ノ日本西文調節ハ

果スル誠意ヲ知りタリ知ルモノト解

ズルモノト云フナリト思フモノ又貴大臣

ノ答ハ先方ノ獨斷的誤解ニ基

キテト勿論ニテ持テ東京未至ニ使節

ノ情報カ偏頗ニテ得ルモノト認意的

館長符號電信

IMT 557

181

596

599

3104

一路ヲ出ル相立敷性玉ノ立場ニ在
 ル両方短束ノ行爲ヲ清浄事ニ至
 交ヲ固結スセント云カ如キ誠ニハ一
 箇ノ物語ト見ラレハカ如キ状況ナリ
 斯ル情執ト下ニ於テ交淡ヲ進ムル
 爲ニ其ノ故容ヲ取テ苦ヨリ
 不満足ナルト不満足ノ限又ナルコト勿

IMT 557

185

600

598

3104

ヲ蒙リ其下ニ於テ威儀ヲ失墜ニ勝
 ナラズモ拘ラズ猶且之ヲ忍ビテ今日迄
 任セヨマリ居シハ大事ノ列々小事ト
 自ラヲ耐ムナリ右重大玉筆ノ目ヲ現
 シ多ク思ハントスル信念ノ具クモノナリ
 本傑者任者時ノ於テ其ノ一般ノ位
 名譽ヲ顧ミルニ西玉一途保ハレモ化ノ

IMT 557

184

599

REEL No. A-0287

601

3104

公式ノ會談開始ニ當リテモ大使館
 員及陸海軍武官トモ熟議ノ末
 当地限りノ交渉条件ハ研究ニ
 ト共ニ右様ニ式ノ交渉ヲ速行ニ爲
 重慶面工作ヲ保用スルニ決セリ
 (本件ハ既實ヲ以テ報告済) 爾後
 本件統轄ノ下ニ交渉進展セリ

館長特設電信

IMT 557

187

602

600

3104

論ナリハ豫メ世見陪ヲ必要トスル
 本朝ノ入ナルト共ニ本致カ有ツ相合トスル
 交渉ノモヲ以テ所約ニノ成果ヲ以テ
 ケシユトハ絶對ニナリトノ見解ヲ抱ク
 此ノ點ニ對シテ長官ハプロット
 其ノ他本使ヲ接觸スル知者ハ才ヲ見
 解ニ致セリ(依テ現行ヒツアル林

館長特設電信

IMT 557

186

601

603

3104

本使自う玉致の長官と直接の談
 合を以て勿論にして本使の長官上
 後十七回數十時合の百八金談
 爲し居ん事毎日の微にして一
 アルヤコトヲ期待する其後本使自う
 屢郵致の長官と合を以て大交渉
 本使自う玉致の長官と直接の談

館長特設電信

IMT 557

189

604

602

3104

本使自う玉致の長官と直接の談
 合を以て勿論にして本使の長官上
 後十七回數十時合の百八金談
 爲し居ん事毎日の微にして一
 アルヤコトヲ期待する其後本使自う
 屢郵致の長官と合を以て大交渉
 本使自う玉致の長官と直接の談

館長特設電信

IMT 557

188

603

607

3104

之程度ヲモノト了解アリタラシ先方ノ
 責任者カ山石畔大佐及井川等ヲ
 我政府ヲ代表スル事ナシト権限ヲ
 与ヘテ居ルモノトノ誤解ハ絶對無キ
 事歟長官ハ最熟心ニ在リ交渉ノ
 成立ヲ望ミ居ル一人ニシテ裏面工作
 ノ対象ナル人ニテ常ニ其責任ヲ明カ

局長符號電信

IMT 557

193

608

606

3104

先方ノ台交セル「オーバーレス」トナレド
 中ニ使用シ居ル所「テハル」ノ協力
 者即チ「ハル」トシ「バラントイン」及
 郵政ノ長官等ヲ指スモノトシテ強キ
 意味ト解シ居ル次第ニテ双方共
 御申請ノ如キ法的根據ヲ有スル由
 事ニキ呈送スルアラス事ニ協力者ト云

局長符號電信

IMT 557

192

607

REEL No. A-0287

アジア歴史資料センター

当局の了解成立の居る否ナリ
 井川之案之御注意有難ク拝承
 成程一月末同人署任以来依頼情報愛報
 取次之案一時大生齟齬上ノ向
 行進アリシニ四月初以来山崎ノ
 監視下ノ同人ノ痛切ナリテ未
 由ニ作事トシテ致スル事ナ
 館長 杉 隆 信

LMT 557

195

610

聴カシタシト云々此ノ點ハ双方共
 任ノ限田ヲ明瞭ニシ居ルモノト
 解アリタシ又山崎大佐ハ本使
 輔佐トシテ駐在ノ陸軍少将ノ
 者派遣方ヲ要請シ之ニ鍾結ヲ
 因成シテ致ルハ非ズ及陸軍
 館長 杉 隆 信

LMT 557

194

609

611

3104

ナリ然レシトモ今日ノ必要ノ事ハ急
 五トシテ日末ニ交リ諸君即チナカ
 断念スルカニ途其ノ一ヲ認ツト
 在リ而モ急速ニ決断ヤサレハ好機永
 遠ニ去ルノ切迫事態ニ在リ此ノ大事
 之直面シテ人ノ續上リノ問題ナリ
 議立ニ明倫ノ空費スル如キハ在リ

館長 杉本 信

IMT 557

197

612

610

3104

ナリ孰レハ且效果的ノ活動ヲ續ケ
 在リ本人ノ道價及スルニ痛ヲ
 ナラサントヲ確認スルニ至リ重長
 面工作及「アソレエイト」件ニ
 結上球ノ如ク在使トシテハ何等不
 合ヲ感シ居ラサル事固ラズモ申
 之反シタルニ返之返スニ遺憾極

館長 杉本 信

IMT 557

196

611

REEL No. A-0287

613

3104

本使リ書状一有之ん書之任ノ竹記因由ニ
 原書之ん又渡人ノ般等ノ一筆ニ不都合
 ノ點ア之ハ之ヲ交渉結末ヲ其ノ之ニ後如
 何様ノ御處分ヲ之甘受之ん決意ニ
 ナルニ付女使ヲ歸朝大道ノ御認可
 ナキ此ノ際此等ノ細部事項ノ審
 査ハ有難ク女使ノ御一任アリます右ノ

館長符號電信

IMT 557

199

614

612

3104

取ラサル所ニシテ又外患ヲ所ニシテ同
 胞同士カ互ニ猜疑ヲ挟ミ合フカ如ク
 ハ執心ノ事ニ當リツレバ關係者ノ
 面カミ来テ迅速ニヤシク交渉ノ佳境ヲ
 阻害スルモノナルコトヲ痛感スルカ致シ
 此ノ際枝葉未末節ノ問題ニ此ノ上
 深入スルコトヲ御察シトセヌ可シ夫レ

館長符號電信

IMT 557

198

613

815

3104

以得居ルヲトシテ
 御意相成度也
 (了)

局長符號電信

IMT 557

201

616

814

3104

要請ハ重大ノ事案ヲ獨斷專行
 之或ハ好意的忠告ヲモ排斥スル事
 思ハレ且觀念之ヲ及布交渉ハ田
 次報告ノ痛ク此云式ノ私的會談
 之ヲ和善な調々裡ニ進行シ居ルヲ
 及一切ノ交渉案件ニ付テハ終始
 本使館員、陸海軍武官等ノ輔佐

局長符號電信

IMT 557

200

615

581A

1383

電信寫

581

Japanese draft
MATSUOKA → NOMURA
on July 15, 1936

1383

外機密

昭和十六年七月十五日午前九時二〇分發電

在米 野村大使

松岡外務大臣

第三六五號 至急、外機密、館長符號

首電第四二四號ニ關シ先方案ト我方案トハ重要事項ニ付キ甚々
キ開キアルモ日米國交調整ノ重大性ニ鑑ミ、難キヲ忍ビテ何
カ妥當ニ達シ得ヘキ對案ヲ見出サント力メ慎重ナル考慮ヲ重ネ
ル末最近ニ至リ漸ク一案ヲ得タルヲ以テ前後二回ニ亘リ政府統帥部
聯絡會議ニ附議シ茲ニ別電第三六六號帝國軍政首腦部一致ノ成案
ヲ得タリ

右案ニハ最大限度ニ米國案ノ趣旨ヲ採擇シ前文、第八章、第四章
及第六章ハ字句及趣旨ニ於テ我方案ト相當ノ懸隔有ルニモ拘ヘ
ス殆ト其儘之ヲ採用シタル次第ナルカ其他ノ先方案中ニハ帝國ノ
基本國策ト相容レサル部分有リテ何分其ノ儘受諾シ難キヲ遺憾ト
スルモ猶ホ我方修正案ハ内容及形式ニ於テ出來得ル限り之ヲ先方
案ト接近セシメント苦心シタル次第ナリ就テハ貴大使ニ於テモ
此邊篇ト御諒察ノ上先方ヲシテ右案ヲ受諾セシムル様此上トモ最
善ヲ盡シレ度シ
我修正理由要旨左ノ如シ

0 263

0 262

617

外機密

1383

電信寫

582

1383

582A

ニ歐洲戰爭ニ對スル兩國ノ態度

(イ) 我方第一次案第一項ノ趣旨即チ歐洲平和ノ速カナル克服ノ爲
ノ努力ニ付テハ先方ニ於テモ主義上反對アルヘキ筈ナク我方
トシテハ舊ニ平和ヲ旨トスル皇道ノ精神ニ照シ絶對必要ナル
ノミナラス國內政治上ノ配慮ヨリスルモ是非共本項ヲ存置ス
ルヲ要スト認メタルモ歐洲戰爭終止斡旋カ猶ホ其ノ時機ニア
ラストノ先方ノ主張ヲモ考慮ノ上我方第一次案末段ニ「適當
ナル時機至ル時ハ」ノ字句ヲ挿入シ先方ノ受諾ヲ容易ナラシ
メントシタリ

(ロ) 我方第一次案第二項ハ我方カ日獨伊三國條約ヲ廢棄セサル限

リ存置セシメサル可カラサルモノナリ又其ノ第三項ハ先方ノ
指摘シタル通り條約ヲ以テ既ニ公表セラレタルモノナレハ之
ヲ存置スルモ何等支障無キ筈ナリ加之同盟條約ト日本了解ト
カ相反スルモノニ非サルノ趣旨ヲ明瞭ナラシメ置クコト、我
方ノ立場上絶對必要ナルヲ以テ右第二項第三項トモ存置スヘ
キモノト思考シタレトモ先方ノ立場ヲモ充分考慮ノ上條文ヲ
按排シ先方案第二項前段ヲ其ノ論我修正案前文ニ取り入レ其
ノ後段ニ我方第一次案第三項ノ趣旨ヲ倣メテ溫和ナル字句ニ
替キ改メテ附加シタリ從テ我方第一次案第三項ハ之ヲ削除ス
ルハ我方第一次案第四項ヲ復活シテ修正案第三項トシタリ之レ同

0 265

0 264

618

外機密

1383

電信寫

583

1383

583A

項ハ右(四)ト不可分ノ關係ニ在ルノミナラス元來此項ハ四月十七日ノ米國案中ニ存在シタルモノニア之ニ對シ我方ハ第一次案ヲ以テ「攻驛的施策ニ出テサルニト」ナル部分的修正ヲ加ヘタルニ過キササルモノナルヲ以テ先方ニ於テモ飽迄本修正案ニ反對スヘントモ思考セラレサル次第ナリ猶ホ此項ハ變ニ申進シ直キタル迪從來米國カ獨伊等ニ對シ執リタル諸般ノ非友誼的措置ヲ是認スルノ趣旨ニ非サルコトヲ此機會ニ於テ重ネテ篤ト先方ニ申入レタル上交渉記録ニ止メ直クヤウ處直アリタン

三、日支間和平解決措置

本條項ハ帝國ノ對支政策及大東亞新秩序建設ノ根本ニ觸レ我方ノ最モ重キヲ置ク事項ノ一ニシテ我方第一次案ノ趣旨ヲ根本的ニ改變セントスル米國案ハ到底受諾シ難シ

米國案ハ我方第一次案中ヨリ日支基本條約及日滿支三國共同宣言ノ揭記ヲ拒ミタルコト、和平交渉ノ對手ヲ「支那政府」一將政權ヲ意味スルハ明白トシタルコト等ニ鑑ミ先方案ハ一方ニ於テ我方ノ南京政府承認ノ取消ヲ要求シ且ツ重慶政府ヲ一地方政權トスル帝國政府ノ方針ヲ否認スルニ均シク他方ニ於テ共同防共、滿洲國獨立其ノ他帝國ノ安全ト東亞民族ノ福祉トニ重大

0 267

0 266

619

外機密

1383

電信寫

584

1383

584A

關係アル事項ヲ不安定状態ニ置クモノト思考スルモ我方ハ思ヒ
 切リテ我第一次案ノ條項ヲ撤回シ先方案ニ或程度ノ修正ヲ加ヘ
 テ妥結ヲ計ル次第ナリ而シテ修正案中ニ「右原則ニ基キ既ニ實
 施セラレタル取極及事項」ト在ルハ實質的ニハ日支基本條約及
 日滿支三國共同宣言ヲモ包含スル意味ナルカ右ノ次第ヲ特ニ表
 面ニ出スニ於テハ先方ノ同意ヲ得ルコト困難ト認メタルニ依リ
 懸ト際立タサル字句ニ改メタルモノナリ猶又我方修正案中ニハ
 第一次案ノ如ク先方ノ嫌フ「南京政府」ノ名ヲ擧クルコトヲ避
 クルト同時ニ我方ニ甚々困ル「支那政府」ナル字句ヲモ之ヲ明
 記セス單ニ蔣政權ナル日常使用ノ常例語ヲ用キ以テ日米兩國ノ

立場ノ相違ヲ目立タサラシメントシタル次第ナリ

次ニ我方第一次案ノ本旨ハ和平交渉ノ基礎タルヘキ根本方針ヲ
 單ニ先方ノ參考迄ニ通報シタル上蔣政權ニ對スル先方ノ和平勸
 告ヲ求メントシタルニ止マリ毛頭日米間ニ豫メ和平ノ基礎條件
 ヲ協定シ置カントスルノ趣旨ニアラス日支事變ハ飽迄日支間ニ
 於テ解決シ第三國ノ干渉若クハ容喙ヲ拒絕セントスルノ根本方
 針ハ今日ニ於テモ帝國政府ノ堅持スル所ナリ從テ米國案「アネ
 キス」ハ全部之ヲ削除ス
 猶ホ蔣政權カ米國ノ和平勸告ニ應セサルトキ米國カ撥蔣行爲ヲ
 打切ル旨ノ約束ヲ何等カノ形式ニ於テ取付クルヲ要ス

0 269

0 268

620

外機密

1383

電信寫

585

1383

585A

四 兩國ノ通商

米國案本文ヲ其儘修正案ニ取入レ我方第一次案ハ之ヲ撤回ス然レトモ米國案「アネキス」ハ日米通商關係ヲ事變前ノ舊態ニ復歸セシムル外我方ノ最モ米國ヨリ入手ヲ希望スル軍需品其ノ他ノ高度國防國家建設ニ必要ナル資材ノ輸出ノ禁止又ハ制限ヲ協定ニテ認ムルニ於テハ日米通商關係ヲ毫モ改善セサルノミナラス事態ノ如何ニ依リテハ將來ニ於ケル日米通商ノ發展ニ重大ナル障害トナルモノト認メラルルニ付之ヲ削除スルコトトセリ

五 太平洋地域ニ於ケル兩國經濟活動

先方案標題ノ太平洋地域ヲ「南西」太平洋地域ニ改メ（前文列舉事項五ニモ同様修正ヲ加フ）我方第一次案ヲ復活セシメタルハ我方トシテ日米協力ヲ特ニ必要トスルハ南西太平洋ナレハナリ又我方第一次案ノ日米協力事項ハ右地域ニ於ケル天然資源ノ生産及獲得ノ爲メニシテ其ノ「商業的供給」ニ付テハ此際米國トノ協定ヲ必スシモ必要トセサルヲ以テ米國案ハ我案トハ全ク取ツテモ付カヌモノナルニ付本來我方第一次案ノ復活ヲ主張スヘキモノナレトモ米國案ヲ出來得ル限り尊重シツツ我方ノ主張ヲ通ヌヤウ考案ノ上米國案末段ニ若干ノ修正ヲ加ヘタリ而シテ右修正ハ元來貴電第二三四號米國原案ニ基クモノナルヲ以テ先方ニ於テ達テ反對スヘキ筋ノモノニ非スト思考ス

0 271

0 270

621

六太平洋地域ノ政治的安定ニ關スル兩國ノ方針

米國案六ヲ(イ)トシ(ロ)トシテ菲律賓ニ關スル我方第一次案ヲ復活シタリ菲律賓獨立問題ハ米國ノ國內問題ニシテ素ヨリ帝國政府ノ干涉スヘキ筋合ノモノニ非サレドモ同地ハ大東亞ノ國內ニ在ルヲ以テ此際其ノ獨立ト日本臣民ノ國民待遇トヲ保障シ置クコトハ將來大東亞民族ノ一般的福祉ヲ増進シ且帝國ニ於テ右地域ニ於ケル諸民族ヲ率キル爲極メテ必要ト認ムルヲ以テ此際將來ニ於ケル主義ノ問題トシテ右保障ヲ協定シ置カントスルモノナリ而シテ我方ニ於テハ素ヨリ米國ノ立場ヲ諒トスルモ米國亦我方ノ立場ヲ尊重スルコトコソ日米了解ノ成立上當然ノモノト

認メラル

猶ホ(イ)トシテ移民問題ニ關スル我方案ヲ復活シタルハ我國家ノ體面ヲ考慮セスシテ日米國交ノ調整ヲ語ルコト能ハスト認メタルニ依ル而モ此項ハ米國案中ニ元々存在シタル所ナリ尤モ我方トシテハ米國政府ノ立場及右決定ニハ議會ノ採擇ヲ必要トスルコト等ヲ考慮シ我方第一次案ニ「無差別ノ待遇ヲ與ヘラルヘシ」ト在ルヲ「米國政府ハ、、、無差別ノ待遇ヲ與ヘ得ル様努力カスヘシ」ト改ム

附則

我方案第一次案後段ノ復活ニ付テハ別ニ説明ノ要ナシト思考ス